

[学会]

第931回千葉医学会整形外科例会

日 時 : 平成7年12月16日(土) 午前9時30分より

平成7年12月17日(日) 午前8時30分より

場 所 : 千葉大学医学部附属病院第一講堂(病院3階)

1. Magerl 法による環軸椎固定術を行った Down 症の1例

阿部圭宏, 後藤澄雄, 山崎正志
大河昭彦, 今野 慎, 加藤大介
(千大)

症例は17才女性, 主訴は右上肢脱力, 歩行障害。画像上, Occiputum Terminale を認め, ADI は前屈位で11mm, 脊髄は C1 高位で圧迫を受けていた。手術は後屈で整腹位を得た後, Magerl & Brooks 法による固定を行った。術後10か月の現在, 歩容, 右上肢巧緻運動の改善を認め, 骨癒合も良好である。強力な初期固定力により, 良好な骨癒合と外固定期間の短縮が見込める本法は Down 症に伴う環軸椎不安定症に対し有効な術式であると考えられる。

2. 胸椎後縦靱帯骨化症に対する術式として後方除圧固定術を選択した1例

國吉一樹, 後藤澄雄, 村上正純
加藤大介, 池田義和, 山崎正志
大河昭彦, 今野 慎, 安宅洋美
西垣浩光, 中島文毅 (千大)
土屋恵一 (県立佐原)

胸椎後縦靱帯骨化症に対して後方除圧固定術を施行しほぼ良好な成績が得られた一例を経験したので, 成績良好因子を中心に考察した。症例は53才女性, 主訴は歩行困難および両下肢のしびれ感である。T3 から T7 にかけての連続波状型 OPLL を認め, T2 から T8 までの椎弓形成術および Paragon system を用いた instrumentation を施行した。術後7か月の現在 JOA score (11点満点) は, 術前3点から9点に改善し, 独歩可能となり, 経過良好である。

3. 腰仙部における巨大 Epidermoid Cyst の1治療例

高橋憲正, 高橋和久, 村上正純
山縣正庸, 加藤大介, 安原晃一
(千大)

抄録: 症例は, 37才男性, 腰痛発症より約10年を経て歩行困難となった。画像診断にて T11 より S2 までの巨大な硬膜内腫瘍が認められ, 顕微鏡下に嚢腫を全摘し, Pedicle screw, 後側方固定による脊柱再建を行った。病理所見は Epidermoid cyst であった。術後一年の現在, 装具装着にて独歩可能となり職場復帰している。

本例は, 渉猟し得た範囲では最も巨大であり, 脊柱再建が有用であった。

4. 腰部脊柱管狭窄症に合併した馬尾神経腫瘍の1治療例

中島 新, 村上正純, 今野 慎
安原晃一, 菅谷啓之 (千大)

腰部脊柱管狭窄症に合併した脊髄円錐部腫瘍の1例を経験したので, それぞれの臨床症状と鑑別点を中心に若干の考察を加え報告した。症例は49才, 男性, 主訴は腰痛, 左下肢痛である。L4/5 レベル combined type の腰部脊柱管狭窄症に合併した L1 レベルの馬尾神経腫瘍であり, 両者に対して一期的に手術を施行した。腫瘍の病理組織学的診断は神経鞘腫であった。術後10か月現在, 術前の症状は完全に消失し, 経過良好である。

5. 多発性髄内血管芽腫の1例

橋本将行, 村上正純, 山崎正志
大河昭彦, 西垣浩光, 池田義和
(千大)
本田 崇 (県立東金)

症例は血管芽腫の家族歴を有する22才女性であり,